

# 正信念仏偈（正信偈）とは

◆1句7文字120句 840文字の漢讃

◆親鸞聖人の主著『顕浄土真実教行証文類』の行文類末尾に収められている  
「ギリギリまで要約して讃仰し、伝承しやすいように詩の形式で説かれたわけ  
です。～中略～ 昔から正信偈が分かったら真宗がわかると言われています」  
(本願寺出版社『正信偈講座』 梯實圓先生)

◆他の漢讃

念仏正信偈…『浄土文類聚鈔』内に  
入出二門偈

◆正信偈の構成

(1) 帰敬序…信の表明

帰命無量寿如来・南無不可思議光の2句

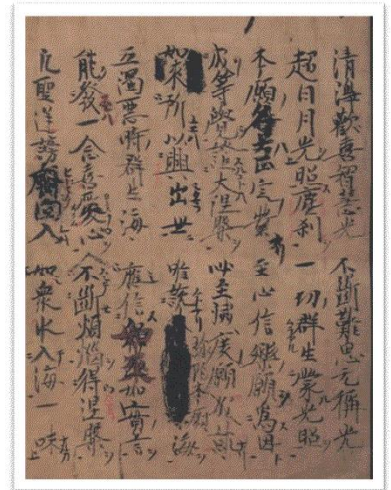
(2) 依経段…無量寿経の内容

法蔵菩薩因位時～難中之難無過斯の42句（弥陀章／釈迦章）

(3) 依釈段…七高僧の説かれた内容

印度西天之論家～唯可信斯高僧説の76句

(総讃七祖／龍樹章／天親章／曇鸞章／道綽章／善導章／源信章／源空章／総結勸信)



◆なぜ正信偈がつくられたか

しかれば、大聖の真言に帰し、大祖の<sup>げ</sup>解釈に関して、仏恩の<sup>じんのん</sup>深遠なるを信知して、「正信念  
仏偈」を作りていはく、

→阿弥陀仏の本願に出あえた喜びと感謝のころから「正信偈」が作られた。

◆蓮如上人以降、和讃6首を付して、日常的な勤行に

# 1. 歸命無量寿如来

## 2. 南無不可思議光

●書き下し

無量寿如来に歸命し、  
不可思議光に南無したてまつる。

●現代語訳

限りない命の如来に歸命し、  
思いはかることのできない光の如来に歸依したてまつる。

●解説・味わい

・この2句は「歸敬序」と言われ、親鸞聖人ご自身の信を表明される部分

・歸命・南無…「ナマス」（梵語）が語源。漢訳が「歸命」・音訳が「南無」。

ナマス ↗ (漢訳) → 歸命                      ※ナマス…敬礼・信順  
          ↘ (音訳) → 南無

・「歸命」「南無」とは、おまかせする、仰せに順うこと。

・「無量寿如来」…阿弥陀仏の無量の命。救いの時間的無限を表す

・「不可思議光（如来）」…我々の思慮を超えた阿弥陀仏の智慧の光。救いの空間的無限を表す

※いつでも・どこでも私を救おうとされている仏さまのお姿、我が身をおまかせする。

# 3. 法蔵菩薩因位時 4. 在世自在王仏所 5. 覩見諸仏浄土因 6. 国土人天之善し惡ぜんまく

## ●書き下し

法蔵菩薩の因位の時、  
世自在王仏の所みもとにましまして、  
諸仏の浄土の因、  
国土人天の善惡を覩見して

## ●現代語訳

法蔵菩薩の因位のとくに、  
所世自在王仏のみもとで、  
仏がたの浄土の成り立ちや、  
その国土や人間や神々の善し悪しをご覧になって、

## ●解説・味わい

- ・法蔵菩薩…阿弥陀仏が仏となられる前、菩薩の位（因位）にあるときの御名。国王。世自在王仏の説法を聞いて、地位も国も財産も全てを捨てて出家。
- ・世自在王仏…法蔵菩薩の師仏。王が国を自在に統治するように人々を自在に教化する仏さま
- ・人天…浄土の聖衆
- ・諸仏という世界観…浄土の聖衆のこと

※師仏との対話（「そつたく啐啄の機」）